

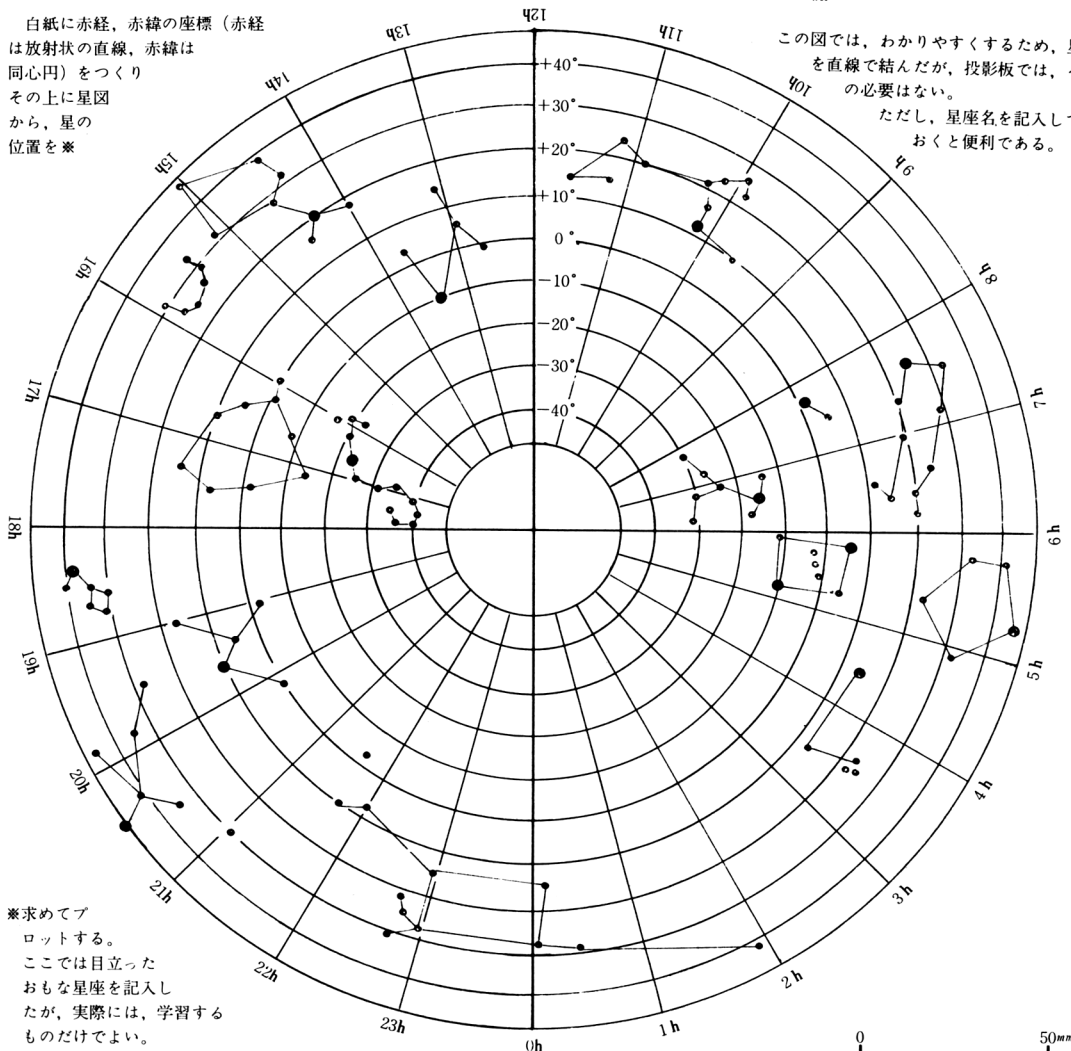
4. おわりに

OHPを活用した天体教材の扱いについて述べてきたが、これは、プラネタリウムがあれば、より効果的にその目的を達成することができよう。しかし、OHPを使い、教室できわめて簡単な操作でその機能の代用をさせることができる点で、活用の機会が多い。

なお、こうした装置を使うことが天体指導のすべてではなく、出発点はあくまでも観測した事実であり、ここにあげたものは、それをおぎない、モデル化し、考察させるためのものであることは、いうまでもない。

図-6

白紙に赤経、赤緯の座標(赤経は放射状の直線、赤緯は同心円)をつくり
その上に星図から、星の位置を*



*求めてプロットする。
ここでは目立ったおもな星座を記入したが、実際には、学習するものだけでよい。

この図では、わかりやすくするため、星を直線で結んだが、投影板では、その必要はない。
ただし、星座名を記入しておくとう便利である。

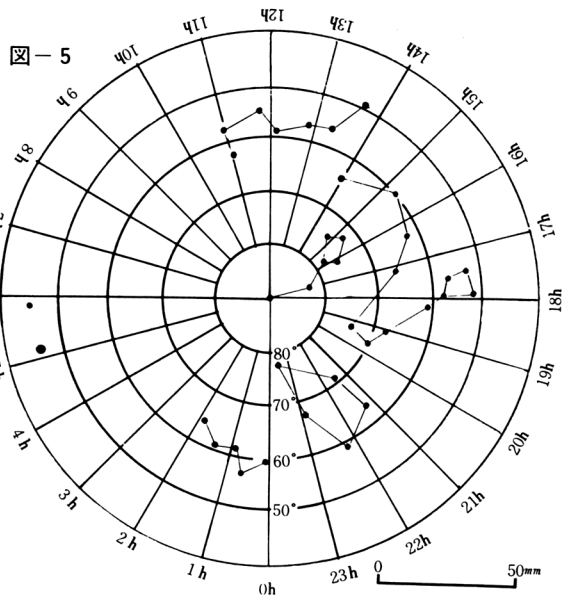


図-5